

## JA淡路日の出 第2次自己改革の基本的な考え方

JA淡路日の出では、農業者ニーズに応え、担い手をサポートし、農業者や地域住民と一体になって「持続可能な農業の実現」を目指しています。そこで、「農業者所得の向上と農業生産の拡大」「地域農業の担い手の育成・支援」「営農経済事業体制・機能の強化」「地域農業の活性化」を基本目標とした自己改革をすすめます。この目標を達成するため当JAは、自主・自立の協同組合であることを鮮明にし、組合員の意思に基づき、今まで以上の創意工夫を発揮し、積極的に新たな事業展開に取り組みます。



### 淡路日の出農業協同組合

〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 3112-14  
TEL : 0799-62-6200  
<https://www.ja-awajihinode.com>



ひのりん



「いちひめ」ちゃん



「淡春ナナ」ちゃん



あわりん

JA淡路日の出では、農業者所得の向上と農業生産の拡大に向け、さまざまな取組みを行っています。また、地域（農業）の活性化に向けては、農地保全・新たな産地づくり、農業経営管理支援などにも、今以上に取り組んで行く予定です。このような取組については、広報誌「さんらいず」やホームページなどで随時お知らせいたします。

#### お問合せはJA淡路日の出 経済センターまで

洲本経済センター	TEL: 22-1122	津名経済センター	TEL: 64-0020
東浦淡路経済センター	TEL: 74-3321	北淡経済センター	TEL: 82-1235
一宮経済センター	TEL: 85-0180	五色経済センター	TEL: 35-0221

## 第2次自己改革プログラム【R2~R4】

令和3年度

# 進捗状況報告書

### 基本目標

- ▶ 農業者所得の向上と農業生産の拡大
- ▶ 地域農業の担い手の育成・支援
- ▶ 営農経済事業体制・機能の強化
- ▶ 地域農業の活性化



ひのりん



あわりん

# 農業者所得の向上と農業生産の拡大

## 農産物の販売拡大

### 付加価値商品

季節限定たまねぎ「淡の春」の販売促進対策として、販売店舗用PR動画、レシピを掲載したリーフレット等を活用したPR活動を行い、京阪神市場に636t出荷しました。

また、非破壊撰果により市場評価が高い冷蔵たまねぎの販売促進として、パンフレットを作成し市場巡回を行いました。

### 振興作物栽培

多収穫米品種「どんとこい」を契約栽培による振興作物と位置づけ水稲苗の助成対象とした結果、営農組合や大規模農家を中心に、89戸で32ha栽培され143tを出荷しました。

## 地消地産による地元農畜産物の消費拡大

### 農産物直売所

御食菜采館洲本店・あわじ花さじき産地直売所では、新型コロナウイルス感染拡大により積極的な取組は出来ませんでしたが、御食菜采館洲本店248名・あわじ花さじき産地直売所90名の部会員により期待に応える商品を提供しました。

## 和牛の増頭対策と繁殖支援対策

### 和牛支援対策

多様な担い手支援として、新規参入者を対象とした研修会を18名の参加により2回開催、暑熱・寒冷対策では補助事業の活用により支援を行いました。

自家保留促進対策では、優良後継牛の保留・導入支援として準認定・準候補牛への支援を合計269頭に行いました。

なお、継続的に実施しています自家保留促進対策によって年間和牛登録頭数が510頭と過去最高数となり、繁殖支援対策の効果が表れだしています。

## 農業経営費用の削減・労力削減対策

### スマート農業

スマート農業による新技術導入と普及に向けた取り組みとして、補助事業の活用により労力軽減化装備（アシストスーツ）を4台導入しました。なお、前年度導入しましたラジコン草刈機による作業受託は、92件の利用がありました。

### レンタル農機

肥料散布での労働力軽減に向けた機材として、新たに自走式肥料散布機を4台導入し、合計13種類の作業機種で41台を保有して利用促進を継続しました。



「淡の春」販売店向けリーフレット表紙



御食菜采館洲本店



あわじ花さじき産地直売所



新規参入者を対象とした研修会



登録検査風景



肥料散布機による散布作業

# 地域農業の担い手の育成・支援

## 地域農業を支える担い手農家の確保と育成

### 新たな技術導入支援

担い手繁殖農家の確保と育成に向け、飼養管理の負担と分娩事故の軽減を目的とし、農業ICT技術の活用による分娩監視カメラを補助事業の活用により支援しました。

### 部会組織の活性化など

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、経済センターで品目単位の研修会や目慣らし会等を実施しました。

## 営農経済事業体制・機能の強化

### 営農相談機能の強化

#### 農家訪問強化

経済センター体制への移行により営農相談員を各経済センターに配属し、TACシステムの活用研修会を行い、担い手農家への効率的な訪問活動に取り組みました。

### 経済施設の効率的運用と機能再編

#### 経済センター化による機構改革

販売の強化・購買コストの抑制・現場対応による業務の効率化と施設の有効稼働を図るため経済センター体制に移行しました。

新たにスタートした経済センター体制については、毎月開催される経済センター長会において状況報告と意見交換を行い、機構改革による効果の検証と問題点の対応策を検討・実践しました。

#### 経済施設の整備と効率的活用

経済施設の整備と有効活用に向け、施設検討委員会を立ち上げ、老朽化した一宮低温倉庫の廃止、北淡低温倉庫の再稼働、鮎原倉庫の撤去による硬化育苗場を開設しました。

## 地域農業の活性化

### 農業と消費者をつなぐ活動

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により活動を控えました。

### 農業収入減少支援対策

新型コロナウイルス感染拡大による農業収入への影響緩和対策として、「新型コロナウイルス農業生産拡大対策支援金等」「米価格下落に伴う出荷特別対策支払」として生産者支援を行いました。

生産者支援対策名	支援額
新型コロナウイルス農業生産拡大対策支援金等	2,654万円
米価格下落に伴う出荷特別対策支払	1,447万円



スマート農業導入例（分娩監視カメラ）



営農相談員が訪問活動で使用する端末



再整備された北淡低温倉庫

